

## 「指揮統制」コース（上級管理）

## 【各講義の内容と学習目標】

オンデマンド講義：R7年1月14日（火）～2月16日（日）  
 対面演習：R7年2月6日（木）

形式	単元No.	単元名	単元の概要	講義No.	時間	動画時間		講師	学習目標
オンライン 講義	0	コース紹介		0	2分	2分			
	1 指揮統制総論 (世界標準に則した指揮統制)	災害対策本部組織を統制していくための理論と基本構造を学ぶ。		1-1	59分	1分	学習項目	林 春男 (京都大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機対応組織のリーダーが果たすべき責務について説明できる。</li> <li>危機にあたって組織のリーダーが行う業務について説明できる。</li> <li>効果的な危機対応を可能にする指揮統制の世界標準について説明できる。</li> <li>危機対応の世界標準を支える4本柱について説明できる。</li> </ul>
						13分			
						13分			
						14分			
						13分	ふりかえり		
	2 指揮統制の世界標準 (危機対応に必要となる役割(部門)と機能)	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割を学ぶ。		1-2	39分	15分	世界標準に則した災害対応体制の構築	秋富 優司 (日本医師会 総合政策研究機構、東北大学 災害科学国際研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害対応でやるべきことについて説明できる。</li> <li>効果的な災害対応を実現するために市町村がはたすべき役割について説明できる。</li> <li>Incident Command System (ICS) を基本とする組織編制・運営について説明できる。</li> </ul>
						18分			
						6分			
						1分	学習項目		
	3 指揮統制の現状	大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語る。		1-3	31分	4分		松岡 隼人（熊本県人吉市） ※林 春男（解説）	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる</li> <li>世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる</li> <li>市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる</li> <li>平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換する ことができる（ICS準拠）</li> </ul>
						4分			
						9分			
						8分	平時業務を世界標準に即した災害対応業務にどう変換するか		
	4 日本社会に適した指揮統制のあり方 (危機対応組織を動かすための14の原則)	危機対応の世界標準に則して災害対策本部の統制のあり方を学ぶ。		2	39分	5分	ふりかえり	林 春男 (京都大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験を基にした指揮統制の実態と考え方を説明できる。</li> <li>世界標準に即した危機対応で活用されるICSの14の基本原則を理解する</li> <li>あらゆる種類や規模の危機に対応可能にするオールハザードアプローチについて理解する</li> <li>どのような危機にも対応できる組織とするために考慮すべきことを知る</li> <li>危機対応組織における指揮統制を効果的に実現するための考慮すべきことを知る</li> <li>危機対応を効果的に推進する前提条件として考慮すべきことを知る</li> </ul>
						4分	学習項目		
						8分			
						16分			
	5 リーダーシップのあり方	リーダーシップの考え方と指揮統制を行うための要求事項を学ぶ。		4	48分	16分	ふりかえり	林 春男 (京都大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神・淡路大震災における応急対応から復興の現場で「その場を仕切れる人」について説明できる。</li> <li>リーダーシップ理論の変遷について説明できる。</li> <li>John Adairの行動中心型リーダーシップ理論について説明できる。</li> <li>行動中心型リーダーシップ理論について説明できる。</li> </ul>
						8分	学習項目		
						7分			
						3分	ふりかえり		

オンライン マンド	講義	6	参謀にとっての災害対策本部運営	危機対応組織の参謀がどのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学ぶ。	6	67分	1分	学習項目	越野 修三 (元 岩手県防災危機管理監)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部の指揮とは何かについて説明できる。</li> <li>・トップと参謀の役割について説明できる。</li> <li>・トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化について説明できる。</li> <li>・情報処理と状況判断について説明できる。</li> </ul>
							16分			
対面	演習	7	災害広報  災害広報（記者会見演習）	地方公共団体の災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者等にどう向き合い、どう語るのかを学ぶ。	7	62分	22分	行政の視点	高島 哲夫（元 防災科学技術研究所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の行政機関による広報の内容・方法等を説明できる。</li> <li>・災害時の広報活動を適切に実施するための情報処理のポイントを説明できる。</li> <li>・記者会見の進行・運営における留意事項を説明できる。</li> </ul>
							30分	災害時のメディア対応	木戸 崇之（エービーシー・リブラー）	
対面	講義	8	災害対策本部の活動のあり方 (責任担当期間での活動の流れ)	災害対応は責任担当期間を単位として展開する。災害発生の時間的経過に応じて、責任担当期間は12時間、1日、1週間と変化する。ここでは責任担当期間内の活動の流れを検討する。	8	45分	10分	演習説明	辻岡 純（防災科学技術研究所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任担当期間内での活動の流れを検討する。</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
							105分		高島 哲夫（元 防災科学技術研究所） 木戸 崇之（エービーシー・リブラー） 辻岡 純（防災科学技術研究所）	
対面	演習	9	全体討論	防災力アップのため、指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。	9	75分			林 春男（京都大学）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講の目的を再認識する。</li> <li>・研修を通じて、学び、得たものを整理する。</li> <li>・研修を活かして次につなげることを認識する。</li> </ul>
									林 春男（京都大学）	